

# 校長室便り

(文責)

ドー八  
日本人学校校長  
酢谷昌義

堂々と「今月の詩」の暗唱

## 日本語スピーチ大会から

第2回「日本語スピーチ大会」を無事に終えることができました。昨年に引き続き実施された催しですが、会場にお越しいただいた皆様の総数は130名にのぼり、昨年の倍以上の方々に参加してくださいました。スピーチに望んだ参加者数も多くなり、レベルもずいぶん上がっていたように感じました。

いろいろなスピーチを聞きながら「相手意識」の重要性について考えていました。中級・上級のテーマは「私の話したいこと」というものでしたが、「誰に対して」という部分を明確に持っていた発表者のスピーチが、やはり素晴らしかったと思います。スピーチですから会場にいる多くの方が聞いていますが、発表する側としては自分の伝えたい相手を「具体的にイメージ」しておくことが大切だと思います。矛盾するようですが、良いスピーチにするためにはとても重要なことだと考えます。

「相手意識」は発表内容にも



スピーチをする出場者

関わってきます。学校で作文指導を行う場合も同じですが、自分が伝えようとしていることを知っている人なのか、それとも全く知らない人なのかによって内容や書き方にも違いが出てきます。つまり誰に伝えたいかを明確にすることによって、言いたいことがより具体的になってくるのです。

このように、スピーチを行ったりその原稿を考えたりする時には「誰に対して」という「相手意識」をはっきりさせておくことが大変重要です。



立ち見の方が出るほど盛況でした

当然のことですが、今回のスピーチ大会からもその大切さを強く感じさせられました。

ドー八日本人学校の子ども達も今月の詩を暗唱しましたが、こういう発表でも同じことが言えます。自分たちの発表を誰に・どこまで届くようにするのか。それによって声の大きさや出し方が変わってくるのです。こうした具体的な指導を積み重ねていくことが、子ども達の指導には重要だと改めて考えていました。



スピーチ後の交流会風景

## 多くの皆様のご参加 ありがとうございました

お休みの日にも関わらず、保護者の皆様をはじめたくさんの方にご参加いただきありがとうございました。

昨年に比べてずいぶん参加者が多く、北爪大使御夫妻をはじめ準備をしてこられた大使館の皆様も大変喜んでおられました。

発表者のみなさんにとっては、聞かれる方の多さに緊張感も大きかったようですが、そういう場で発表できたことで自信にもなったようです。

多くの皆様のご協力により、無事に第2回日本語スピーチ大会を終えることができました。心からお礼申し上げます。

# 校長室便り

(文責)

トー八  
日本人学校

校長  
酢谷昌義



英会話発表の練習をしています

## より良い発表に向けて

6月4日のオープンスクールで「ミニミニ発表会」を計画しています。英会話と国際理解の学習で学んだ成果の一部と、音楽発表を行う予定です。学習発表会ほどではありませんが、人前での発表となると準備や練習が必要です。どの学年もみんな発表練習に頑張っており取り組んでいます。

昨日はスピーチ大会から「相手意識」について触れました。より良い発表にするために気をつけたいことをもう少し考えてみたいと思います。

発表する時に大事なことは声の出し方です。「大きな声で大きな口を開けて」という段階が出発点です。人前でも大きな声が出せるということがとても大切なのです。しかし聞き易さを考えると、ただ声が大きければ良いという段階を越えなければなりません。日頃から訓練することによって「相手にきちんと届く話し方」を身につけさせることが必要になります。

ここで重要なのが「相手意



3・4年生「かぼちゃのつるが」

識」です。相手にきちんと届けたいという気持ちになれば、自然と声の大きさや出し方が変わってきます。大勢を前にした場合には、中頃より後ろの人を意識することになります。その上できちんと自分の声を届けたいと思うと、声はいつもの声よりも自然と高くなり明瞭になっていきます。そういう声の出し方を身につけると、聞く側にとっても大変聞きやすい発表ができるようになっていきます。

そこまでたどり着くのは大変ですが、その出発点は「大きな声で大きな口を開けて」なのです。声の小さな子に対して、聞こえないからと近づいていくとますます声が小さ



5・6年生「星とたんぼぼ」



中学部「山頂から」

くなってしまう。反対に距離を置いて「しっかり声を届けよう」と意識させることが必要です。

もう1つ大切なのが「場面意識」です。これは普段の指導が何よりも大切なものです。教室の外と中、授業の始まる前と始まってからなど、場面が改まると改まった言葉になるということを、きちんと実践させなければなりません。

普段の授業・生活の中で「相手意識と場面意識」を明確にしなが、相手にきちんと「届けたい」という自分の気持ちがとても大切だということを、繰り返し指導していきたいと思います。

### 明日は「農業試験場」見学 (小学部)

カターの農場を見学して作物の様子や栽培の工夫を学ぶために、明日は小学部全員で「農業試験場」の見学に出かけます。

見学は1時間ほどですが、かなりの暑さが予想されますので「水筒・帽子・タオル」の準備を忘れないようお願いいたします。

またとない機会ですから、有意義な見学にしていきたいと思ひます。

# 校長室便り

(文責)

ドー八  
日本人学校  
校長 酢谷昌義



遮光ネットの中で



芝生について



自然の中の植物

## 「暑さ」に負けずに

今日から6月、これから最も暑い季節が続きます。そんな中、小学部は予定通り農場見学に出かけました。この暑さの中でどうやって植物を育てるのか、農業試験場での工夫を学ぶための見学ですが、出かける前からどんなところに行けるのだろうと、みんなとても楽しみにしていました。

見学は9時からでしたが、気温が40度を超えるという大変な暑さの中での学習になりました。さすがに1時間はもたず、早めに切り上げるような形になってしまいました。

それでも子ども達は大変良く山田さんの説明を聞いていました。どんな学習でも、まずしっかり聞けるというところが、ドー八日本人学校の子ども達のとても良いところで

す。今回の見学のように、また次の機会があるかどうか分からない学習の場合には「見ること・聞くこと」はますます重要になってきます。

暑さに負けず試験場で努力されている方の工夫や苦労を学ぶことは、子ども達の学習や生活を充実させていくためにも必ず役に立つのではないかと思います。見学のお世話をしてくださった山田様に心からお礼申し上げます。



はじめのあいさつ



いろいろな植物

六月の詩  
小学部低学年

「てるてるぼうず」  
江口あけみ

いくちゃんが  
てるてるぼうず  
あした  
げんきに  
あしたは  
てんきに  
あまがえるさん  
ふるふるぼうず  
あした  
げんきに  
あしたも  
ざんざか

あそべるように  
つくったの  
なるように  
なるように  
あそべるように  
なるように

小学部中学年

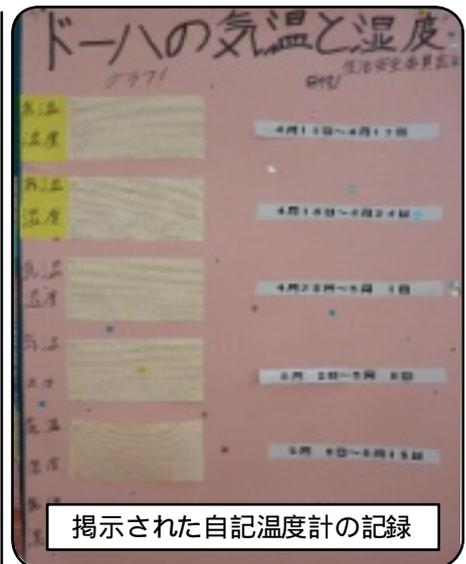
「あめのうた」

鶴見正夫

あめは  
きつと  
やねと  
つちと  
かわと  
はなと  
あめは  
だれとも  
どんな  
やねで  
つちで  
かわで  
はなで  
ひとりじゃ  
だれかと  
いっしょに  
いっしょに  
いっしょに  
いっしょに  
うたえない  
いっしょだね  
やねのうた  
つちのうた  
かわのうた  
はなのうた  
なかよしで  
しってるよ  
やねのうた  
つちのうた  
かわのうた  
はなのうた

# 校長室便り

(文責)  
ドーハ  
日本人学校  
校長 酢谷昌義



## やってきた厳しい暑さ

いよいよ厳しい暑さがやってきました。小学部の農場見学が、暑さのために時間を短縮しなければならなくなったことはお知らせしましたが、本当に強烈な暑さが続くようになってきました。

私の過去の経験では、最も気温が高くなったのが6月の10日前後でした。百葉箱の中で48度を記録したのが最高だったように記憶しています。既に連日40度を超えています。学校で授業が始まる時間には35度から40度近い気温になっています。校舎内にも、自記温度計の記録が掲示されています。それを見ても、カタールの本格的な夏になったということがとても良く分かります。

日本ではその内に、しとしとと雨が降り続く梅雨がやってくる季節ですが、ここでは当分雨を見ることもできなくなってしまいます。そこで小学部の今月の詩に、雨に関する詩を取り上げました。少し

でも日本の季節感を意識することができたらよいと思っています。

暑さは厳しくなっても、子ども達は毎日元気に頑張っています。授業時間も休み時間も、いろいろな活動に真剣に取り組んでいます。これから何か月も戸外での活動はできなくなってしまいますが、今まで以上に体を動かすことに

は気をつけたいと思います。

何よりも私達自身がこの暑さに負けず、毎日元気で子ども達の前に立ち続けられるように頑張らなければならないと思います。

五月の詩  
小学部高学年

山田今次

「あめ」  
あめあめあめあめあめ  
あめあめあめあめ  
あめはぼくらをさんざかたたたく  
さんざかさんざか  
さんざんざかざか  
あめはさんざんざかざかざかざか  
ぼつたて「やをねらうたたく  
ぼくらのくらしをびびびしたたく  
さびがざりざりはげてるやねを  
やすむことなくしきりにたたたく  
ふるふるふるふる  
ふるふるふるふる  
あめはさんざんざかざんざかざん  
ざかざんざかざん  
ざんざんざかざか  
つきからつきへとざかざかざかざか  
みみにもむねにもしみこむほどに  
ぼくらのくらしをかこんでたたたく

中学部

「六月」

茨木のり子

どこかに美しい村はないか  
一日の仕事の終わりに一杯の黒麦酒  
鍬を立てかけ籠を置き  
男も女も大きなジョッキをかたむける  
どこかに美しい街はないか  
食べられる実をつけた街路樹が  
どこまでも続き  
すみれいろした夕暮は  
若者のやさしいさざめきで満ち満ちる  
どこかに美しい人と人の力はないか  
同じ時代をともしに生きる  
したしさとおかしさとそうして怒りが  
鋭い力となって たちあらわれる



今日も元気よく遊んでいます

# 校長室便り

(文責)

ドーハ  
日本人学校校長  
酢谷昌義

中学部の実習の様子

## 体験を通して学ぶ

今週は調理実習が2度行われました。小学部5・6年生と中学部の家庭科の授業で計画されていたものです。

私が子どもの頃は、教科書に例示されているものしか作ることができませんでした。最近では自分たちで工夫しているいろいろなものに挑戦できるようになっています。また以前の教育課程だと、中学校では技術と家庭が分かれていて、男子は技術しか習わず女子の調理実習をうらやましく見ていた記憶があります。現在のように、技術家庭科として履修内容に男女の差を完全になくしたのは平成5年以降のことです。より良い生活に関わる知識・技能を身につける学習ですから、男女による差があることは今考えると本当に不思議です。

子ども達の実習の様子を見ていて、こうした体験を通して学ぶことの重要性を改めて考えました。学校での学習だけでなく、学ぶということは頭で理解するだけでは不十分



5・6年生の実習の様子

で、実際に行ってみるとということが確かな力にしていくなめには必要です。

よく言われる「分かる」と「できる」の違いは、こうした体験を通して理解できたかどうかということによる違いなのだと思います。例えば包丁の使い方にしても、いくら頭で理解していてもそれでは役に立ちません。実際に使ってみて、危ない場面も経験しながら(もちろんそうならな



みんなとても美味しそうにしかも満足そうに食べていました

い方が良いのですが)自分の思うように、そして安全に使えるようになっていくのです。包丁は危ないからと使わせないでいたら、いつまでたっても使えるようにはなりません。

体験を通して学ぶということも「失敗から学ぶ」ということでもあります。失敗を恐れているのは、本物の力は身につけられません。学校が「子ども達が安心して失敗できる場であれば...」と思います。



## 明日は「オープン・スクール」

今日は3・4時間目を使って、明日のオープンスクールで行う「ミニミニ発表会」の予行練習を行いました。アラビア語・英会話・音楽発表の練習に、みんな一生懸命取り組んでいました。

誰もが知っている前で行うのですから、やはり緊張感が漂っています。しかしいつも言っているように、そこでどれだけ頑張れるかが大切です。

十分な準備をしてきたわけ

ではありませんが、子ども達は明日精一杯発表すると思います。保護者のみなさんはもちろん、たくさんの方に見ていただきたいと思います。



アラビア語の発表練習